



春溪浪話

三

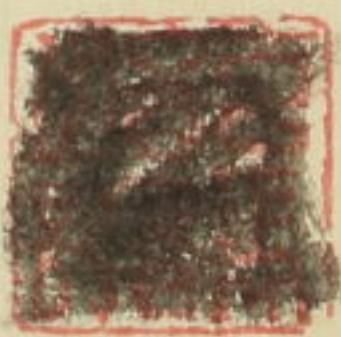
1曾5
72
3



門 5
雙 72
卷 3

春溪浪話下卷目錄

- 志水冠者
- 櫛鼻禪年綱
- 青葉笛
- 浮三位於改御墓
- 旬
- 正一位の神社
- 歌々、貝殻
- 本非茶
- 烏帽子の綱
- 葎 葎
- 小枝笛
- 萬葉前
- 七日の帰りの意
- かりの子
- 茶
- 伽羅



- 沓尾
- 勝島
- 水溜葛口
- 曾我十郎向五郎
- 笠原臣金村
- 菊のきせ源
- 高師通久艶忠と高好州子
- 伊部陶器
- 庵の石立
- 樹の箭と射る猿
- 源為朝の
- 残菊の

凡二十八条

春溪浪石下巻

備前子太肥經平著

志水冠者

本曾義仲の嫡子志水冠者承隆隠居すといふこと
 本名を藤之原と云ふ由や先のこと、承隆より承平人の
 形見として七重の筆題を射るに世に於て此五人の筆
 申して志水冠者

と云ふらるるの筆葉や柱ぬらんありてこれにておと
 作らるる海舟の筆葉や柱ぬらんありてこれにておと
 おのりたる筆葉や柱ぬらんありてこれにておと

と横一は町志水郡の青成のり十一歳ありしは平
盛重代長の本平家物語のり志水郡府から年の
りりり家家の業あり他法あり世世と耐えくわあ
能くしありのわありしりああり回舎ひりりり人
父の侍より生さるる男児のしりりりりりりりりり
能くしありのわありしりああり回舎ひりりり人
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
あつらんはりりりりりりりりりりりりりりりりり
信守解を攻ややりりりりりりりりりりりりりりり
能くしありのわありしりああり回舎ひりりり人

かき中ををぬりりりりりりりりりりりりりりりりり
能くしありのわありしりああり回舎ひりりり人

為智子の自徳

本多義仲治承の上流をりりりりりりりりりりりり
少将りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
及女弟盛長於能くりりりりりりりりりりりりりり
家りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
悪口りりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

ついでに徳とせしむるに人皇のお供の面々しるはあを
かへりて、横皇禪といふも、徳とらむる昔の事一より
あはれとて、判にまあるるを徳とて、感皇記の横皇禪と
あはれとて、判にまあるるを徳とて、感皇記の横皇禪と
いふも、徳とせしむるに人皇のお供の面々しるはあを
かへりて、横皇禪といふも、徳とらむる昔の事一より
あはれとて、判にまあるるを徳とて、感皇記の横皇禪と
あはれとて、判にまあるるを徳とて、感皇記の横皇禪と

下帝といふは、あはれとて、判にまあるるを徳とて、感皇記の横皇禪と

葎カワノ青ソウキ

葎青といふは、あはれとて、判にまあるるを徳とて、感皇記の横皇禪と
あはれとて、判にまあるるを徳とて、感皇記の横皇禪と
あはれとて、判にまあるるを徳とて、感皇記の横皇禪と
あはれとて、判にまあるるを徳とて、感皇記の横皇禪と

あはれとて、判にまあるるを徳とて、感皇記の横皇禪と
あはれとて、判にまあるるを徳とて、感皇記の横皇禪と
あはれとて、判にまあるるを徳とて、感皇記の横皇禪と
あはれとて、判にまあるるを徳とて、感皇記の横皇禪と

二ツありて今傳りてありあきりふも長門の川に平家
の舟入りて漢行の筆集とてしそ、そ余の舟中とて書
しりしもの足る

源三郎光政の墓

光政の古墳、支本傳画像と跡をみたり、今迄の年
等院の外丹波尾流に居りて光政の墓あり、寺あり、
光政の自言の度、後出長七郎とて自言を記述せり、
入て首よりけしをせり、下迄古河の墓ありて、
一由りて、納りて、今古河の光政郡とありて、
そを納りて、社とて、光政の明神とて、

云傳し、後出長七郎とて、井伊早を首とて、
我々を、
河上良社といひて、
付て、
首とて、
員とて、
是を、

旬といふより早く入り申す二箇の旬とて夏の始と
冬の始迄長くも活祝ひ夏に最冬に氷負とありて
只うち任せても向うて事より多くとあり朔旦冬迄も
江戸舟の朔旦向うて事と又位うつせぬに初て
歸りの舟をいふ機に旬と申す新内理に極流まで南船
等一舟をいふ影の向うと申す二箇極流迄は夏の出
多分の別の日と申す向うと申す初と申す事あり

七日、帰るを忌

今の世儀はあはれなる事とて七日とて極流と申す事あり
事あり極流天皇延暦四年八月平城に幸たり

その世儀は甲辰と申す事あり極流と申す事あり
ありて置所の居る事とて極流と申す事あり
あはれなる事あり一丙戌の日あり一壬辰の日
七日
ついでついでと申す事あり七日と申す事あり
あはれなる事あり

正一位の神位

中御門宣胤の文政の法に能くありし事極流社の額
より多くありあり一神のおとと部を極流とて位八
極流とて二箇額をいふ事ありとて一宮流の昔とて
しての事ありあり一位に人臣の極流あり人臣の神

あしし僧大衆の集揚記しし一紙の思ひ定まらば持たし
強食大衆の集揚記しし一紙の思ひ定まらば持たし
らしし一紙の思ひ定まらば持たし
世に於て又まじし世に於て又まじし世に於て又まじし
七十四後多し百後多しあしし一紙の思ひ定まらば持たし
の思ひ定まらば持たし
集揚の集揚記しし一紙の思ひ定まらば持たし
百後多し一紙の思ひ定まらば持たし
りしし一紙の思ひ定まらば持たし
の思ひ定まらば持たし

第三種と名曰後つし一紙の思ひ定まらば持たし
後つし一紙の思ひ定まらば持たし
と名曰一紙の思ひ定まらば持たし
或し一紙の思ひ定まらば持たし
春を一紙の思ひ定まらば持たし
異時一紙の思ひ定まらば持たし
同し一紙の思ひ定まらば持たし
首を一紙の思ひ定まらば持たし
集揚の集揚記しし一紙の思ひ定まらば持たし
集揚の集揚記しし一紙の思ひ定まらば持たし

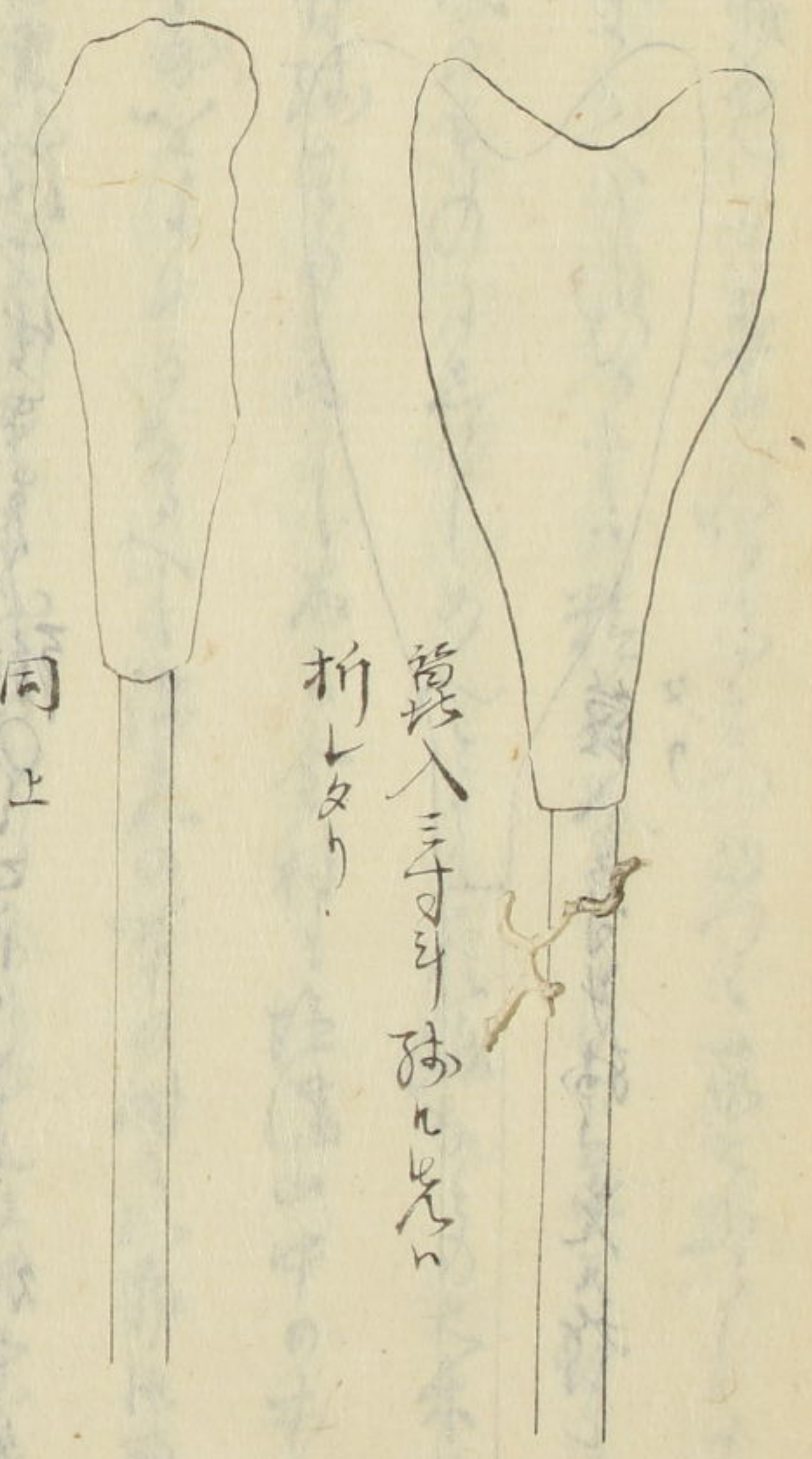
第... 堀川... 利休... 茶室...

中北集

中北の集... 堀の庵... 茶の庵... 堀の庵... 堀の庵...

最傳門... 堀の庵... 茶の庵... 堀の庵... 堀の庵...

くら抄せしむるに... 大... の...
 第... の... の... の... の... の... の...
 くら... の... の... の... の... の... の...
 くら... の... の... の... の... の... の...

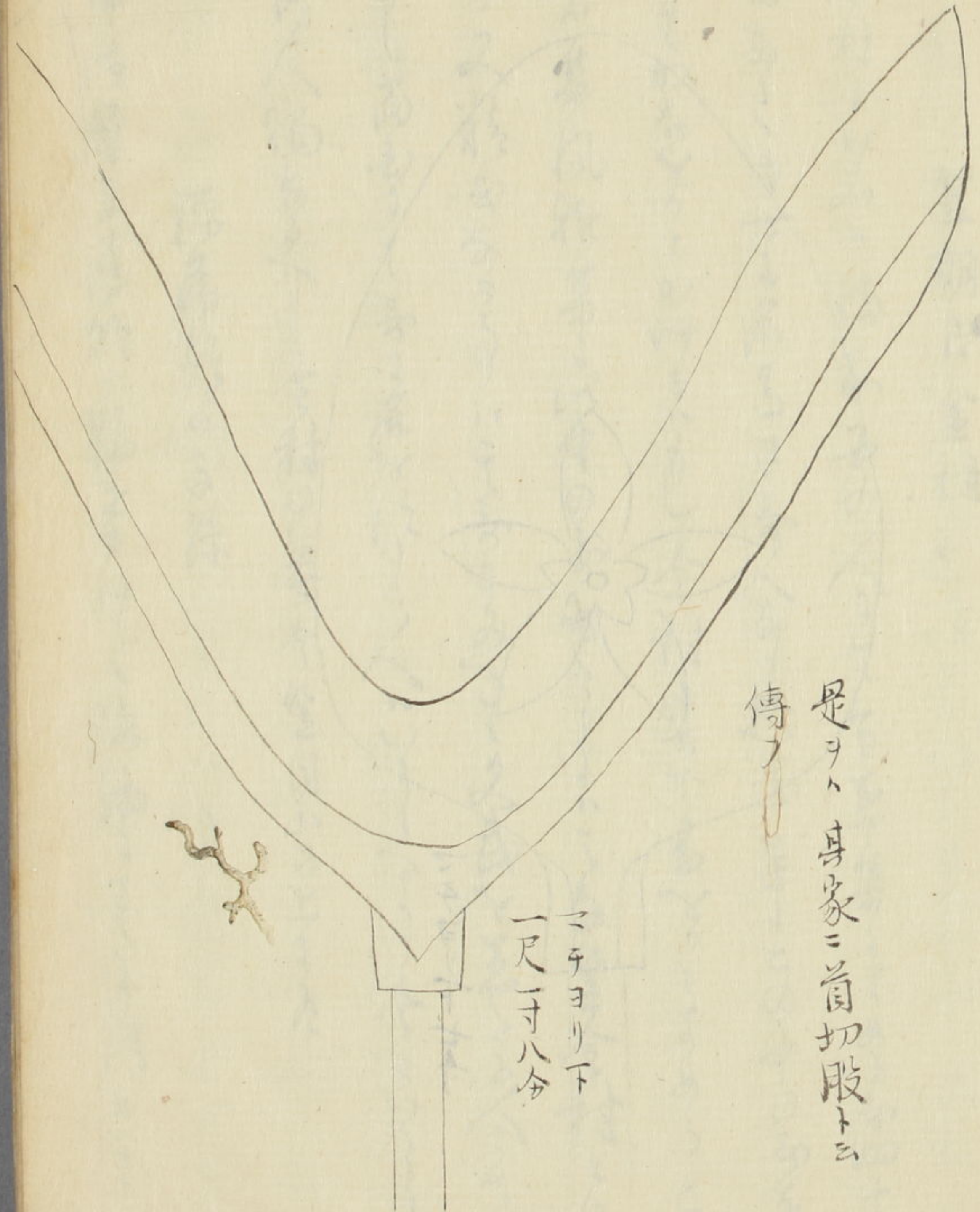


簪入三斗斗鉢の...
 折レたり

同上

備中吉備津宮の... の... の... の... の... の...
 り... の... の... の... の... の... の...
 ... の... の... の... の... の... の...
 ... の... の... の... の... の... の...
 ... の... の... の... の... の... の...
 ... の... の... の... の... の... の...

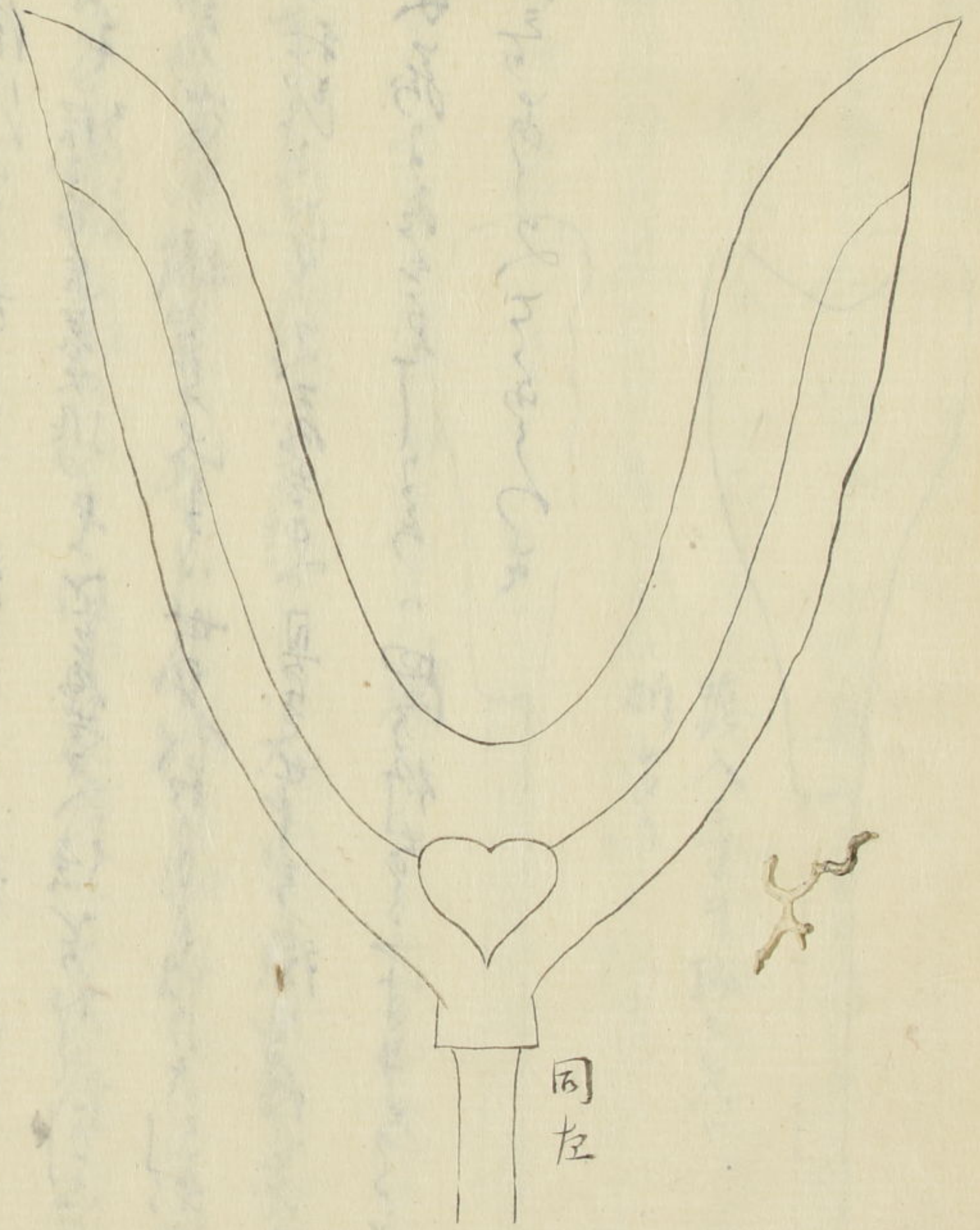




是ヲハ身家ニ首切股ト云
傳フ

ニチヨリ下
一尺寸八分

Handwritten text in Japanese, mostly illegible due to fading. Some characters are visible, including '前' (front) and '後' (back).



同左

Handwritten text in cursive script, likely a list or index of entries. The text is written vertically and appears to be a continuation from the previous page.

後集の巻

Handwritten text, possibly a title or a specific entry, located below the section header.

Main body of handwritten text on the left page, continuing the list or index. The script is consistent with the right page.

春溪活下

[Faint, illegible bleed-through text from the reverse side of the page]



